支部からのメッセージ

サシバが危ない

神奈川県では秋に多くのサシバの渡りが観察されていますが、嘗ては通過する個体以外に、県内の夏の里山に多数が飛来していました。現在は県内に生息する個体は非常に少ないのが実情です。「神奈川県鳥類目録Ⅳ」によると夏での県内の記録は15年程前を３とすると、10年程前は２、そしてこの５年程は１と急激に悪化しています。

サシバは里山の丘陵地で、深く侵食された谷沿いの湿地（谷戸）の中に広がる田圃（谷戸田）周辺に生息する蛙、蛇、昆虫類を餌に繁殖する人の生活圏で共生する猛禽類です。1998年に実施した「サシバの全国繁殖状況調査」アンケートのまとめによると、サシバの繁殖共通条件として「谷戸田は幅20～80ｍ、奥行きは500ｍ程度、水田は水路が素堀で耕作放棄が少なく、両側に針葉樹を含む連続した斜面林がある」とあります。2002～2003年、支部関係者で地形図と現地下見で主に相模川西側地区の46箇所の谷戸田をピックアップし、現地調査をしました。

今回の調査で、繁殖が確認された場所は平塚市、茅ヶ崎市、小田原市の計３箇所のみで、長期滞在は葉山町、厚木市、中井町の３箇所のみでした。それも年を追うごとに、条件は悪くなっているようで、小田原市では2003年はカラスの影響か繁殖失敗、葉山町では長期滞在する個体を確認できませんでした。

減反政策等により、谷戸田の多くが耕作を続けるのが困難な状況で、嘗て谷戸全体に谷戸田があったものが、現在は他へ転用、耕作放棄等で田圃が谷戸の３分の１以下になっている所が大多数でした。その様な中、大磯町での南に向いた谷戸では谷戸田が多く確保されていましたが、サシバの飛来は殆どありませんでした。サシバの餌が農薬等の影響で少ないことが影響しているのかも知れません。

支部の「鳥類目録」でのデータ及び会員からの情報では、以前は横浜市、葉山町、横須賀市、秦野市、城山町等でも繁殖記録が報告されていますが、最近は飛来そのものの確認さえ難しい場所が多くなっています。

サシバはその一部は丘陵地の清流にも生息、繁殖する事が知られており、調査確認の頻度が少ないのですが、三浦半島の武山付近、相模川西側に沿って北西に延びる丘陵地から相模湖に至る場所では可能性があり、今後の調査の課題です。

県のサシバの繁殖個体数はオオタカよりかなり少なくなってきている事は確実で、繁殖個体が多い北関東でも繁殖成功率が低下し出しています。サシバは神奈川県のレッドデータブックでは減少種（繁殖期）とされており、県の鳥獣保護事業計画では絶滅危惧種でないため、特にそのために鳥獣保護区設定等はしないとしています。サシバはオオタカよりも、生息地環境変化や餌環境変化に対応できない感じであり、その保護は、オオタカ同様、早急に何らかの対策が必要になっています。この声は、サシバが多いと思われている北関東の関係者からも出ています。

サシバの繁殖について、過去の例でも構いませんので情報をお持ちの方は支部までお知らせください。また、希少なサシバの繁殖を妨害することのないように巣への接近は避けてください。今回の現地調査及び情報提供で参画された方々は次の通りです。（敬称略）
青山聖子、朝日豊彦、門脇加津子、金子海太、上玉利浩一、北川淑子、吉家奈保美、久保廣晃、澤田博文、三瓶昭、篠原由紀子、鈴木茂也、田中和徳、田村俊幸、飛岡文人、長沢勲、沼里和幸、畠山義彦、浜口哲一、葉山嘉一、樋口公平、牧田智也、万行弘倫、三澤幸子、御手洗望、三井修、宮脇佳郎、安井啓子、山下史朗、脇田信雄　　**（支部幹事　森　要）**